

生徒の皆さんへ

宮城県宮城第一高等学校
校長 佐藤 浩之

令和5年度 学校評価について (報告)

11月に実施しました学校評価アンケート調査について、多くの貴重な意見をいただき、ありがとうございました。評価の結果がまとまりましたので報告いたします。

◇回収率 対象 全校生徒
回収率：1年次 263人(93.6%)、2年次 255人(92.4%)、3年次 247人(90.5%)

◇評価段階
A：当てはまる B：どちらかといえばあてはまる
C：どちらかといえばあてはまらない D：当てはまらない
肯定的評価（A＋B）が90%以上：◎、60%以上：○、50%以上△、50%未満▲

◇評価領域ごとの結果と分析(数値の単位は%)

1. 教育活動全般に関する評価領域

No	評価項目	A		B		C		D		A+B	評価
		男	女	男	女	男	女	男	女		
1	学校行事は楽しく有意義に行えるよう配慮されている。	40	50	48	43	10	6	2	2	91.5	◎
2	学校生活は充実している。	47	46	41	45	7	6	4	2	90.7	◎
3	災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。	49	47	38	44	10	8	2	1	90.6	◎
4	学習活動、学校行事、部活動では特色ある学校づくりに取り組んでいる。	49	61	44	36	6	2	2	1	95.9	◎
5	学校ホームページやClassiなどによって、学校の情報は適切に伝えられている。	47	52	40	40	11	7	1	1	91.1	◎
6	校舎やグラウンドなどの施設・設備は整備されている。	33	36	39	40	16	19	12	5	75.7	○
7	授業・課外・クラスの活動等において、iPad等のICT機器が利活用されている。	64	74	30	23	2	3	3	1	95.9	◎

設問1「学校行事」と設問2「学校生活」は、肯定的評価が91%と高評価となっています。特に、設問1の学校行事については、昨年度より2%ほど評価が上がりました。今年度は生徒の皆さんと先生方で協力、工夫して、さまざまな学校行事を実施できたことに対する評価だと思います。また、「学校生活が充実している」と感じている皆さんが多かったことに、自ら考え行動できる宮一生のモチベーションの高さが感じられます。今後も、この意識の高さが継続されることを大いに期待しています。

設問3の「災害時の対応」は、昨年度に引き続き、約94%と肯定的評価が高いものでした。年2回の避難訓練においては、避難経路や非常時の連絡方法を皆さんと再確認しました。また、防災委員の皆さんも活躍してくれました。これからも、適切な情報発信を心がけ、防災意識の向上に努めていきたいと考えています。新校舎移転に際して、避難経路を再度見直し、周知していきたいと考えていますのでよろしくお願いします。なお、「災害」とは、地震・台風・洪水・津波・火山の噴火などの自然災害はもちろんですが、人間の活動によるもの（産業災害・感染症・公害・テロなど）も含まれます。皆さんも、社会の一員として、高い防災意識を持って生活して欲しいと思います。

項目4「特色ある学校づくり」は、5年連続で肯定的評価が90%を超えており、今年度は95.9%と5年間でもっとも割合が高くなりました。本校の特色ある学校づくりが理解されていると考えています。今後も生徒の皆さんとともに、魅力ある学校づくりに努めていきたいと考えています。

項目5「学校の情報」は、肯定的評価が91.1%と高水準であり、学校からの情報が各生徒へ適切に伝えられていると考えます。これからも連絡事項などを様々なコンテンツ、ツールを活用して発信に努めます。

項目6「施設・設備」は7割台の肯定的評価ですが、昨年度より10%以上も上昇しました。仮設校舎であるがため、騒音やその他の設備の面で不便がありましたが、この学校評価が行われた翌週より、新校舎へ移転が完了しました。最新の施設設備となり、今後も駐輪場やグラウンドの整備が行われるなど、環境改善が進みます。新校舎といえども、生徒の皆さんからの要望も受け入れながら、予算等の面での制限もありますので可能な範囲とはなりますが、さらなる改善に努めたいと思います。

項目7「ICT 機器」は、95.9%の肯定的評価でした。生徒の皆さんは、積極的にiPadを活用しています。ICT 機器を活用した授業展開や学校行事等での情報化など、できる限りの手助けをして行きたいと考えています。今後も、情報モラルに注意してiPad等を大いに活用して下さい。

2. 学習活動に関する評価領域

No	評 価 項 目	A		B		C		D		A+B	評 価
		男	女	男	女	男	女	男	女		
8	学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている。	23	23	41	50	21	22	15	5	71.6	○
9	学校として、スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている。	33	35	54	54	12	9	2	2	88.4	○
10	2年次、3年次での科目選択について十分な説明が行われている。	31	40	50	45	13	12	5	3	83.9	○
11	教科の年間指導計画や評価の仕方について説明されている。	40	40	48	47	8	10	4	3	87.3	○
12	学習について気軽に教員に質問できる雰囲気がある。	36	37	47	47	12	13	5	3	83.7	○

特に前年に比べて変化の大きかった項目は、項目9「学校として、スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている。」でした。前年度の肯定的評価66%から今年度は88.4%まで上昇しています。昨年度の文言が若干変更されているため、単純な比較はできませんが概ね高い評価です。

本校のスクールミッションは「積極的な姿勢で自らを成長させる「自主自律」の理念のもと、高い知性と豊かな創造性を身に付け、相手の立場に敬意を払いつつ自己の責任を果たす、リーダーとして社会の発展に貢献しうる人材を育成する学校を目指します。」です。これに基づき、スクールポリシーの柱の1つとしてカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）を設定しています。その内容については、下記のとおりです。

【普通科・国際探究科・理数探究科共通】

○海外を含む高等教育機関へ進学できる学力と学びに向かう力の育成

→授業をはじめとして、深く幅広い確かな知識とそれをさまざまな場面で活用できる力を、自律的に身に付けられるように支援する。

○社会における多様性を理解すること、他と協働すること

→授業での対話的な学びや、特別活動での望ましい集団活動を通じて、多様性を承認し他者を尊重する精神を育む。

【普通科】

○知的好奇心と探究に向かう心、チャレンジ精神、失敗からも立ち直る力の育成

→授業や探究活動の中で、知識の伝達にとどまらず、社会の様々な課題に関心を持ち、生徒が自ら律し自ら学び、深く学問を追究していくことを支援する。

【国際探究科】

○高い英語活用能力と国際的な視野の育成

→学校設定教科「国際」の各科目、探究基礎、国際探究、探究発表、秋桜探究学を中心として、高度な探究活動を実践する。

【理数探究科】

○理数的な能力・教科横断的な能力の育成

→理数科の専門科目、探究基礎、理数探究、探究発表、秋桜探究学を中心として、高度な探究活動を実践する。

他のポリシーについては、宮城県教育委員会による下記ページで確認してください。

(<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koukyou/school-mission-policy.html>)

項目8「学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている」は肯定的評価が71.6%と2年連続で低い結果となりました。新学習指導要領では『主体的・対話的で深い学び』のキーワードのもと、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」を重視した授業、学んだ一つ一つの知識がつながり「わかった」「おもしろい」と思える授業、周りの人たちと共に考え、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業など、工夫を凝らしながら生徒の資質・能力を育てることが求められています。ここ数年、本校における生徒の学び合いやグループ学習での発表など、各教科で探究的な学び・ICT利活用の取り組み、各教員の授業力向上に対する改革は急速に進んでいるものと考えています。しかし、「探究」や「ICT」などの授業改革のある一面には、期待する授業スタイルとは異なる部分があると捉えています。基本となる知識・技能を十分に身に付けないうちに探究的な学びやその活用を求められるのは、生徒によっては重要なポイントが掴めず、教科書や資料の内容さえも理解がおぼつかない状態になっている場合も考えられます。そればかりか、教科書等の内容以上の知識を自ら得ようとする意欲も失いかねません。探究的な学びを行うに当たっては、身に付けさせたい資質・能力を見定めた単元の目標設定、授業ごとのめあて、評価のポイントを生徒の皆さんに示すとともに、「生徒の意見」、「客観的な学力」、「授業スタイルの振り返り」が相互的に関わる取組が必要と考えています。また、探究的な学習の成果物として、それぞれの教科から課題を出されるため、総じて課題が多くなりがちで、そのため自主的な家庭学習の時間が充分確保できないなどの意見も見られます。教科間の連携をとり、必要な時期に必要な課題が出されるような調整を図る必要もあると考えます。内容・分量・回数精選吟味をしていますが、授業担当者間で連絡を取り合い過重負担にならないよう、今後もさらに留意してまいります。

3. 進路指導に関する評価領域

No	評価項目	A		B		C		D		A+B	評価
		男	女	男	女	男	女	男	女		
20	進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	31	37	54	49	7	11	8	3	85.6	○
21	大学についての情報提供が的確になされている。	40	43	48	47	6	9	6	1	89.7	○
22	自分の進路について相談に応じる体制ができている。	42	42	47	44	9	10	3	3	86.7	○
23	進学へ向けての模擬試験や課外講習が充実している	48	52	44	42	4	5	4	1	93.5	◎
24	進路ガイダンス・進路講話は適切に実施されている。	39	48	52	43	7	7	3	2	91.4	◎

進路指導関係の評価項目は、全般的に肯定的評価が高いと受け止めています。昨年度比で唯一マイナス評価（-0.5%）となった項目が「進学へ向けての模擬試験や課外講習が充実している」でしたが、それでも全体の94%が肯定的評価でした。他項目の肯定的評価も全て昨年度よりも向上しており、特に昨年度から+6.7%となった項目が、「大学についての情報提供が的確になされている。」でした。今後も「進路便り」の発行頻度を高めるなど、分量や内容、タイミングなどの最適化を意識しながら十分な情報提供を図って行きたいと考えています。

4. 生徒指導に関する評価領域

No	評 価 項 目	A		B		C		D		A+B	評 価
		男	女	男	女	男	女	男	女		
13	学友会、各種委員会の活動が盛んで充実している。	29	28	42	53	22	15	7	4	78.8	○
14	部活動が活発に行われている。	57	57	36	37	6	5	2	1	93.6	◎
15	挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている。	30	25	42	47	15	21	14	7	72.3	○
16	学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。	23	22	47	54	20	20	10	4	74.8	○

項目13「学友会、各種委員会活動」の肯定的評価は+5.8%と向上しました。宮城第一高校として、諸行事を運営する委員会活動、それを全体的に支える学友会活動が様々な場面で機能し、一年間学校全体を盛り上げた実感できているところは良いと思います。評価は向上していますが、80%を越えていけるよう、さらなる盛り上げを皆さんとできたら良いと考えています。

項目14「部活動」の肯定的評価が昨年度より-1.0ですが93.6%、概ね活発な活動になっていると考えます。新型コロナウイルス感染症への対応も変わり、それぞれの活動様式も変化が見られると思います。以前に戻すという考え方に拘りすぎず、新たな形でよりよい活動を作っていくという考えで進んでいくのも大切なことだと考えます。

項目15「挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立」の肯定的評価は+7.3%と向上しましたが、評価は72.3%になりました。挨拶やマナーは校内に止まらず、様々な場面や場所で通用するものを身に付けておきたいものです。人と接するとき、最初の印象は大切です。気持ち良く交流するためにも、元気の良い挨拶が出来ることは誰にとっても有益で大切なことと考えます。少し思い切って声を出してみる、積極性を持ち、勇気を出して行動していくことで変化していくこともあると思います。「自主自律」の校風ではありますが、学友会や各種委員会と連携、適宜声掛けをしながら、今後も皆さんと考えていきたいと思っています。

項目16「いじめの早期発見」の肯定的評価は+4.1%と向上しましたが、評価は74.8%となっています。アンケートの採り方を工夫するなど、面談機会を生かしていくことで、効果が上がっている部分もあると感じますが、さらに生徒の皆さんが安心して学校生活を送れるよう、いつでも気軽に相談できる体制、雰囲気作りから進めていきたいと考えます。

5. 健康管理に関する評価領域

No	評 価 項 目	A		B		C		D		A+B	評 価
		男	女	男	女	男	女	男	女		
17	必要なときに、悩みや困りごとの相談に応じてくれるカウンセリング体制が整っている。	31	33	49	53	15	11	5	2	85.1	○
18	健康や体について困ったとき、相談に応じる体制が整っている。	33	36	50	51	13	10	4	2	86.3	○
19	校舎は衛生的に管理されている。	48	38	39	49	9	11	3	2	86.9	○

項目17「カウンセリング体制」については、過去2年間と比較すると、大きな変動はなく概ね良好と捉えています。引き続き、カウンセリングの申込方法等、年次集会を利用する等の工夫をして、アナウンスを充実させたいと考えています。また、身近にいる先生方が悩みや不安を抱えている生徒や「SOS信号」を出している生徒を早期に発見し、生徒の悩みや不安を受け止め、必要に応じてカウンセリングに繋げていけるように努めていきます。

項目18「健康相談体制」は、肯定的評価が86.3%と前年度とほぼ同じで、概ね良好と判断しています。今後もカウンセリング体制と同様にアナウンスと年次の先生方と連携して情報収集に努め、健康相談に繋げていきたいと思っています。

項目19「校舎の衛生管理」は、前年度よりも肯定的評価が2.6%下がりました。新校舎での生活がはじまりましたが、美しい校舎を維持するためにも、学友会を主とした各種委員会はじめ、生徒の皆さんとともに、今まで以上に環境美化に努めていきたいと考えています。